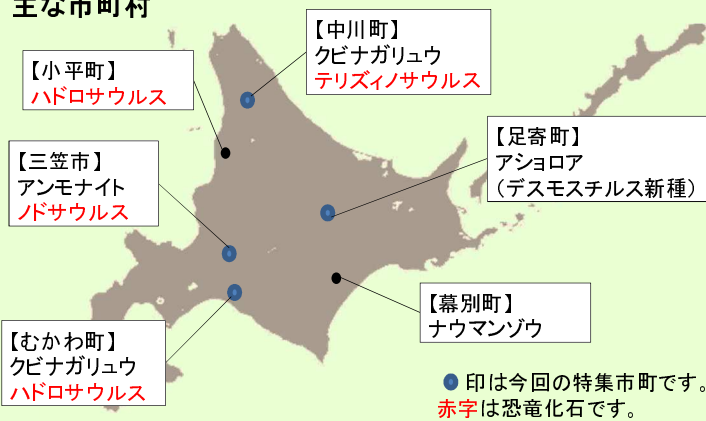


全国の動き

につぼん恐竜協議会

恐竜化石を活かした地域づくりで連携しようと、北海道むかわ町、兵庫県丹波市・篠山市、熊本県御船町の4市町は今年5月に連携に向けた覚書を締結。11月26日に自治体ネットワーク「につぼん恐竜協議会」を発足させました。今後は恐竜化石が見つかった他の自治体にも参加を呼びかけ、化石の相互展示や子どもたちの交流などを行う予定です。

道内で恐竜・化石をまちづくりに活かしている
主な市町村



インタビューに
引き続き
このページからは

恐竜・化石を
活かしたまちづくり

今回は、日本最大の恐竜全身骨格化石の発表を受けて恐竜研究の最前線である北海道で、「恐竜・化石」をまちづくりに活かす4市町を特集します。

特集

むかわ町

海と陸、人と人をつなぐ

日本最大の恐竜全身骨格化石

恐竜ワールド構想

むかわ町では平成27年12月、「恐竜ワールド構想」を策定しました。それは、「むかわ竜」を「未来につながる夢と希望」の資源として大きな可能性を秘めた貴重な財産と捉え、クビナガリュウをはじめとした貴重な化石とともに、化石全体を活用した事業をむかわ版地方創生事業のシンボル事業として打ち出すというものです。

基本理念は、平成25年12月に穂別総合支所職員を中心として結成された有志団体「恐竜化石を活かしたまちづくり研究会」が独自視察・研究の末に残した『恐竜化石を活かしたまちづくりへの政策提言』が基盤となっています。

また、構想では町全域を「恐竜ワールド」というステージと捉え、白亜紀のロマンあふれる化石や、その他の資源に満ちた土地として展開することとしています。

今年2月には推進計画を策定。同年4月には、恐竜化石をはじめとする様々な地域資源を活かしたまちづくりの推進・検討・情報発信のため「恐竜ワールド戦略室」を設置しました。

恐竜ワールドセンター

平成28年7月、恐竜ワールド構想を民間側から推進する組織である「むかわ町恐竜ワールドセンター」が結成されました。まちづくりや恐竜に興味があるメンバーが集まり、今年8月に主催した「むかわ恐竜アカデミア201

平成29年4月に「むかわ竜」が国内最大の恐竜の全身骨格化石であることが発表されたむかわ町。今回、編集部では、この太古からの奇跡の贈り物をまちづくりに活かしている方々の取組と今後の展望についてお聞きしてきました。

(取材者 地域戦略課 高野、横浜、貝澤)

恐竜ワールド構想

基本理念

①化石にふれあい、化石に学ぶ

②化石を活かし、化石と生きる

基本目標

- ① 町民参加と協働
- ② 地域資源と既存施設等の連携活用
- ③ 恐竜化石等の有効活用
- ④ 資料展示、普及による交流の充実
- ⑤ 学術研究機関との連携活動



インタビュー

恐竜ワールドセンター
代表 工藤 弘氏
事務局 関 雅彦氏
恐竜アカデミアについて

「では、学術的な面だけでなく芸術的な面からも恐竜に親しんでもらうことを目標に、学術講演以外にも、野外アート展示や折り紙教室、ワークショップ、ミュージックフェスなどを取り入れた複合的なイベントを行い、多くの参加者から好評を得ました。現在も、恐竜を町の文化として醸成するための活動を行っています。」



代表・理事 工藤 弘氏

旧鷗川町出身。代表就任のきっかけは、小林准教授の講演。「恐竜のまちづくり」と町の未来に可能性を感じた。

〔工藤氏〕平成28年の発足から、何をするか模索する日々でしたが、メンバーから野外芸術祭のようなイベントをやりたいという意見があり、試しに皆でアイデアを出しあってみました。

せいぜい半分くらいしか実現しないと思いましたが、ふたを開けてみるとほとんどのアイデアが実現できました。なかでも恐竜折り紙教室は子どもたちに人気でした。

今後の活動について

〔関氏〕今後も、センターとしては教育・文化的なものに軸足を置いた活動を行っていききたいと思っています。

〔工藤氏〕8月の「恐竜アカデミア」

では北海道文化財団の補助金をいただき、大きなイベントを行いました。今後はもう少し草の根的な学術・アートの面で地元素材を使う体験型の活動もしていきたいです。子どもから学生、そして親から年配の方につながるような、色々な活動を行い、それらが集積したらまたアカデミアのようなイベントを立ち上げたいと思っています。



事務局 関 雅彦氏

旧鷗川町出身。東京・仙台などで勤務した後、45年ぶりに故郷に戻り、まちづくりに尽力している。

目指す恐竜ワールド

〔関氏〕地方創生が曲がり角に來ていると感じます。従来の、補助金を使っただけで観光客を呼んでお金落ちるという構造だけではもたなくなってきたように感じます。外部からの刺激をもらうために交流人口は必要ですが、それはあくまで手段で、町内に将来の担い手が根付くことが必要だと感じています。

〔工藤氏〕私たちの設立理念の一つ「人口が減っても心豊かに暮らせるまち」を目指して、結果や数字ばかりを追うのではなく、辛抱強く目に見えないソフト面を充実させる活動をしていきたいと考えています。



インタビュー

副代表 栗原 健一氏
携わるきっかけ

穂別出身ですが、地元を離れている間は、自慢できるものが何もない町だと自虐的に紹介したりしていました。平成23年にむかわ町にUターンしました。まちに活気がない事がかりで、まちづくりに関わるようになりました。町の諮問機関であるまちづくり委員会に参加し、恐竜を活かしたまちづくりをテーマとする分会に所属。恐竜によるまちづくりの可能性を感じるとともに、化石そのものに強く惹かれるようになりました。今では自ら化石を掘りに行くようになっています。

活動の抱負

今、まちの中にはほとんど誰も歩いていません。今後、まちに人が闊歩するようなまちづくりをしていきたいです。

むかわ町穂別は札幌からは車で2時間、新千歳空港からも近い上に、化石という貴重な資源に触れられる土地です。この土地の魅力を味わってくれる人を増やしたいです。

イベントなどで化石クリーニング体験をすると、子どもたちのすごい集中力に驚きます。体験だけでなく、形と



恐竜ワールドセンター副代表・
ほべつ恐竜館館長
栗原 健一氏

旧穂別町出身。恐竜ワールドセンター期待の
ホープ。自ら経営する理美容室の店舗の一部
を化石クリーニング体験ができる「ほべつ恐竜
館」として提供している。

して残ること、化石から過去を想像し
学び取りながら、それを研究の一部と
して未来に残せるという満足感がそう
させるのかと思います。

こういった体験を、イベントなど限
定的なものではなくて、仕組みをつ
くって常に提供できるようにしていき
たいです。競合相手も限られるので、
可能性があると感じています。

何とかして自分の町の名前を残した
いです。新しいことに対して「穂別と
鶴川とが合併したため、町自体が広く
て難しい」なんて言い訳している場合
ではないんです。恐竜は道内に他に選
択肢が少ないからこそやっていけると
思っています。自分の町だとかななか
気づかないですが、当たり前前の方が
すごく大事ですよ。

インタビュー

「むかわ竜」第一発見者

堀田 良幸氏

(インタビュー内容を活かすため
口語体で記載しています)



「むかわ竜」第一発見者

堀田 良幸氏

旧穂別町出身。「むかわ竜」以外にも様々な貴重な
化石を数多く発掘している。長年の経験と、アマチ
ュながら多くの文献等を読んで地質・地層の勉強
を重ねる努力が多くの発見に結びついている。

化石発見から発掘までの経緯

趣味で年間何十回も山に入って化石
採りしてんだ。クマに出くわすことも
あって命がけの趣味なんだ。

最初に「むかわ竜」の背骨の化石の
一部を見つけたのは今から14年前で、
もう大昔だ。最初は大きなワニかと
思った。周りにもう少し骨があると
思ったけど、そのときはそれ以上掘る
のやめて、骨は穂別博物館の櫻井さん
のところにやった(寄贈した)んだ。し
ばらく音沙汰なくて、にわかに騒ぎ始

堀田さんにとって

「むかわ竜」の価値は？

(出なかったら) 職無くすぞって言っ
たんだ。でも小林先生は「これに賭け
てますから」って。結局あの人が正し
かった。すごい人だよ。

俺はアンモナイトを狙って掘ってい
たんだから、化石採りとしてはあたり
が外れて、嬉しいばかりではなかつた
んだ。ただ今年6月の公開の時、子ど
もたちが喜んでくれたのと、地元のお
店や宿が賑わってくれたことが良かつ
たなあ。夏休みには本州から親子連れ
で来る子もいて、サインしてくれて
来たりするから、試しに化石クリーニ
ングやらせてみると大層喜んだんだ。
自分の息子にも初めて「お父さん、化
石やってて良かったなあ」と言われた

今後期待すること

決して裕福でないこの町で予算をか
けて発掘が行われたんだ。将来「こん
なものの掘らなければ良かった」って
いう言葉だけは聞きたくない。この地域
で、おにぎり一つでも多く売れて、旅
館の一部屋でも多く泊まってくれたら
嬉しい。そのためには、町外から来や
すくて、化石とむかわ町の良さを存分
に味わえる環境を作ることが大事だな。

んだ。同じ石でも恐竜がもつパワー
てもんを実感したなあ。

「むかわ竜」発掘年表(概略)

2003年 4月 (平成15年)	旧穂別町稲里で堀田氏が化石を発見。穂別博物館・櫻井学芸員と共に現場に行き化石を回収。
2011年 8月 (平成23年)	クビナガリュウの研究を行う佐藤たまき氏(東京学芸大学・准教授)により恐竜化石の可能性が示唆される。
9月	北海道大学 小林快次准教授が研究依頼を受理。標本を調査。
11月	小林准教授が現地調査を行う。連続した骨化石が残存している可能性などを指摘。全身骨格を想定した発掘計画を立案。
2013年 7月 (平成25年)	第一回報道会見。小林准教授、発見者堀田氏などが参加。同年9月～10月に第一次発掘を実施。
2014年 1月 (平成26年)	小林准教授、日本古生物学会第163回例会にて産出報告。同年9月、第二次発掘を実施。
2017年 4月 (平成29年)	「むかわ竜」が日本最大の恐竜全身骨格化石であることを報道発表。同年6月むかわ町鶴川地区・穂別地区で全身骨格標本を一般公開。8月「むかわ恐竜アカデミア2017」開催。

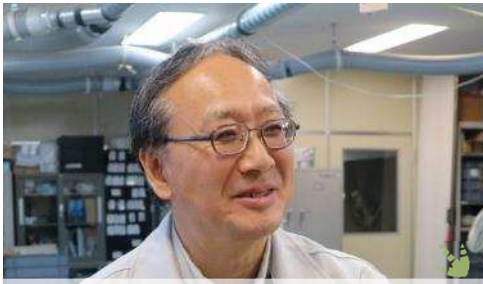
穂別博物館学芸員

櫻井 和彦 氏

発掘から現在

平成23年、以前堀田さんから寄贈いただいた化石が恐竜のものである可能性が出てきて、北海道大学の小林先生に見ていただくことになりました。現場を確認したところ体の前方の骨が出てきたため、平成25年と26年に北大と共同し大規模な発掘調査を行うことになりました。

北海道で大規模な恐竜化石発掘が行われるのは初めてでした。現場が道有林であったため、道の森林室へ様々な手続きが必要で、しかも書類は全てマル秘扱い。その点で若干苦慮はしましたが、森林室の皆さんが好意的に受け入れてくださいました。



穂別博物館 学芸員
櫻井 和彦氏

2003年、第一発見者の堀田氏と共に発見現場に入り化石を採掘。今後も恐竜の盛り上がりには不可欠であり、期待を寄せている一人。

「むかわ竜」のインパクトと

むかわ町の課題

今年4月に国内最大の全身骨格化石であることは発表されましたが、現在も石の塊から骨化石を取り出すクリーニング作業は、穂別博物館・北大などで行われています。博物館でのクリーニングは、以前は1名体制でしたが現在は4名体制にボランティアの方も加わって行っています。



▲化石クリーニングの様子

やはり「恐竜」は他の化石と別格で、皆が夢になる存在です。今後、更なる盛り上がりが見られます。既に今年7月（有）ゴビサポートジャパンというレプリカ製作会社が町内に進出し、11月からは町内の7名を雇用し、「むかわ竜」のレプリカ製作に着手しています。

今年4月の発表以来、博物館の入館者数は前年に比べて増え続け、今年10月末時点で入館者数は昨年の年間総入場者数を大きく越えています。今年6月に行われた実物標本の一般公開には、鶴川地区・穂別地区合わせて、5000人を越える人が訪れました。飲食

店などは大変な賑わいでした。

もちろん経済効果はありましたが、そこで様々な課題もはつきりしてきました。博物館自体の駐車場だけでなく、食事処、お土産品やそのお店など、今後は、多くの人に対応できる体制づくりが必要となるでしょう。

博物館の今後

アンモナイトやクビナガリュウはまさしく、このむかわ町（かつての海）で生きていた存在であり、むかわ町の自然史を語るには非常に重要な存在です。一方、「むかわ竜」は何らかの経緯でこの町に流れ着いた陸の生物です。「むかわ竜」の常設展示はまだ先ですが、海と陸の二本柱での展示を行って、海生爬虫類と恐竜が出たむかわ町の特性をアピールしていきたいです。

平成29年12月現在、穂別博物館では「むかわ竜」の骨格の一部のみ展示しており、全身骨格は研究中のためご覧いただけません。

恐竜隊員（地域おこし協力隊）

中田 幸宏 氏

隊員としての活動内容

今年7月より、恐竜隊員（むかわ町地域おこし協力隊）として就任してから現在まで「恐竜アカデミア」や道内初のティラノサウルス・レックスの全



恐竜隊員
中田 幸宏氏

兵庫県出身。北海道大学を卒業し関西での大学院生、東京での社会人経験を経て今年7月より、恐竜隊員（むかわ町地域おこし協力隊）として就任。

身骨格レプリカ展示などイベント開催に奔走してきました。

現在は来年2月にプレオープン予定の「むかわ町子ども化石くらぶ（仮称）」の準備を進めています。化石くらぶは「化石を楽しみながら科学して将来の古生物学者を応援する」ことを目標に、町内をはじめ道内の小学生を対象に、平成30年5月から10月の間、月に一度、むかわ町内での化石関連の学習や実地体験を行う計画です。

むかわ町の印象と今後の展望

むかわ町はフレンドリーな人が多く、僕にも興味を持って積極的に話しかけてくれます。自分も任期の間、新しいことにどんどん飛び込んでいくことを心がけ、むかわ町内外へ、「むかわ竜」や化石の魅力や価値を伝える活動に従事して、町の活性化につなげたいと思います。